

福山大学 グリーンサイエンス研究センター 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	福山大学グリーンサイエンス研究センターの理念・目的に関して、センター規程には以下の様に記載されており、これを本センターの中長期的な使命・目的とする。 第1条 センターは、福山大学における先端的な学術研究基盤を強化し福山大学研究推進委員会の目的に沿って、生命工学部、薬学部を中心とするライフサイエンス分野の教育研究を推進し、地域の研究機関、産業界、自治体及び関係諸団体等広く社会と連携して活力ある地域づくりに貢献する。この理念・目的に則り、・研究プロジェクトの推進、・研究教育環境の改善、・研究教育を通じた地域社会への貢献を進める。
-------	--

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	上の中長期計画に書いたように、本センターの使命・目的の意味・内容は具体的かつ明確と考える。
年度目標	現状を維持
年度報告	使命・目的はセンター規程に記載されている。
達成度	A
改善課題	特に変更はない。
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	本センターでは大学のブランディング研究「瀬戸内の里山里海学」のもと、瀬戸内の生態系解明や資源利用、特別研究などを推進しており、個性的で特色ある大学ブランドの確立に貢献している。
年度目標	現状を維持
年度報告	センター規定にライフサイエンス分野の教育研究を推進すると記載されており、個性・特色を明示している。
達成度	A
改善課題	特に変更はない。
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター規約
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	社会の要請・趨勢や時代背景の変化について検討し、現代社会で関心が高い持続可能性、生物多様性、環境や生態系の保全に関する研究プロジェクトを推進している。

年度目標	現在の生態系研究プロジェクトを推進するとともに、持続可能な社会の構築を目指して、健康の維持増進など薬学部を中心とした研究プロジェクトもさらに発展させたい。
年度報告	社会の要請に基づき、大学ブランディング研究や特別研究を推進した。
達成度	S
改善課題	ESGやSDGsなど社会的な要請や時代の変化に応えるべく、引き続き検討に努める。
根拠資料	①研究成果報告会 ②グリーンサイエンスセミナー ③研究成果報告書など
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	本研究センターの使命・目的は、大学のブランディング研究や文科省私立大学研究ブランディング事業への採択を通して、教職員の理解と支持が得られていると考えている。
年度目標	一応理解と支持は得られていると考えているが、広く受け入れられ理解されている状態には至っていない。研究の推進と研究成果の公表などを通じて理解と支持が得られるように努める。
年度報告	この一年で、大学ブランディング研究がかなり全学に浸透した。
達成度	S
改善課題	大学全体の取り組みとして更に大学の教育研究を活性化すべく、教職員の理解と支持を得ていきたい。
根拠資料	①特別研究成果発表会(大学院FD研修)資料など
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	センターの理念・目的をグリーンサイエンス研究センター規程に謳って大学構成員に周知するとともに、ホームページなどを通じて社会に公表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	センターの使命・目的は、グリーンサイエンスセミナーや研究成果を通じて学内外へ公表、周知している。
達成度	A
改善課題	文科省ブランディング研究の内容にも含まれる広報活動を更に活発にして、学内外に発信していきたい。
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センターホームページなど
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	本研究センターの使命・目的に基づいて推進している優先課題研究、特別研究について、3～5年の研究計画を立てその内容に反映させている。
年度目標	研究計画がセンターの使命・目的に合致したものであるか定期的に検証し、反映に努める。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	文部科学省私立大学研究ブランディング事業は廃止になるが、中長期的な視野で対応していきたい。
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	本センターは独自の3ポリシーを持たないので、「大学のポリシーを反映しているか」と読み替えると、主に大学のディプロマポリシーを本センターでの研究活動に反映させている。
年度目標	主に研究活動（卒論や修論博論など）を通じて3ポリシーに反映させるように努めたい。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	関連部局の教育研究活性化を通じて、その成果を大学の3ポリシーに更に反映させていきたい。
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センターHP http://web.fukuyama-u.ac.jp/green/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	本センターには専任教員はおらず、センター長、副センター長および運営委員会委員がその組織と言える。運営委員は生命工学部と薬学部（研究科を含む）からバランス良く選出され、整合性は取れていると考える。
年度目標	現状を維持するとともに、兼任教員の配置について検討したい
年度報告	センターは教育組織を持たないが、研究プロジェクトの組織構成とセンター使命・目的の整合性は取れている。
達成度	A
改善課題	現状を維持し、研究プロジェクトとの整合性が取れた組織の構成に努めたい。
根拠資料	①研究成果報告書（ホームページに掲載）ほか
次年度の課題と改善の方策	

基準2. 学生**領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応****中長期計画**

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	

2018年度 グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の中でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	

改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	本センターには専任教員、配属学生がいないので、ハラスメント対応については全学的に行う学部学科の発生防止やハラスメント対応に準拠している。
年度目標	現状ではセンター独自のハラスメント発生防止への取り組みは考えにくいですが、必要があれば検討する。
年度報告	現状を維持し、学部の発生防止・ハラスメント対応に準拠した。
達成度	B
改善課題	現状ではセンター独自にハラスメント対応する必要は無いが、引き続き発生防止に取り組む。
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	センター独自にはハラスメント防止に取り組んでいないが、生命工学部・薬学部の取り組みに準拠している。
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	文科省私立大学研究ブランディング事業の採択や新たな研究室の転入を機に、センター内の研究環境整備を行った。現状ではセンターを利用する教員により分担管理運営されている。
年度目標	現状で比較的効率的に運営・管理されているが、まだ1/3ほどは整備されていない部分があるので順次環境整備に努める。
年度報告	センター全体にわたり、研究環境の整備と適切な管理・運営を行った。
達成度	S
改善課題	次年度は教員が2名加わる予定なので、新たは学修研究環境の整備と適切な運営・管理に務めたい。
根拠資料	①環境DNA解析室と次世代シーケンサ解析実験室ほかを整備した。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	実験室、研究設備・装置については生命工学部と薬学部を中心に活用されており、利用の利便性も上がっている。ICT教室、図書館の利用についてはあまり該当しない。
年度目標	新たな研究施設・設備が導入され、また休眠していた装置も復活したので、さらに利用者の利便性を上げ研究環境の整備に努める。
年度報告	本センターの施設設備が、学生実験や卒論、修論などに利用された。
達成度	S
改善課題	共同利用センターと協調しながら、実験研究施設の活用を図りたい。
根拠資料	①環境DNA実験室、次世代シーケンサ解析室を新たに整備した。
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	バリアフリーについては、研究センターであるにも拘わらずエレベーターがないので重量物の移動等に困っている。研究センターなので学生のためのアメニティスペースは取っていない。
年度目標	バリアフリー化については、改善はなかなか難しい。研究活動のためのディスカッションペールを確保したい。
年度報告	バリアフリーに関しては現状を維持した。アメニティスペースは1階にソファを設置している。
達成度	A
改善課題	十分とは言えないかもしれないが、現状で特に問題はない。
根拠資料	①1階ロビーのソファの設置
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	センターで授業は行わない。一部学生実験を行っているが、そのための特別な施設・設備上の管理は行っていない。学生実験の前には施設利用のための説明を行っている
年度目標	今のところ現状を維持する計画である。
年度報告	各部屋や装置については管理者を決めて管理している(センターでは授業は行わない)。
達成度	B
改善課題	特に不満や要望は出ていないので、現状を維持する。
根拠資料	①なし
次年度の課題と改善の方策	センターの施設・設備は学生実験に使っても支障が無いよう管理しているが、授業は行なわない。
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	消火器を適切に配置している。非常階段の点検を行っている。その他防災施設・設備の管理については、全学的な取り組みに従っている(全学の防災訓練を行った)。
年度目標	今のところ現状を維持する計画である。
年度報告	全学的な防災・防火対策に従い、消火器の点検・交換などを行った。
達成度	A
改善課題	引き続き、全学の方針に則り防災・防火の観点から整備点検を行う。
根拠資料	①大学で保管している火災報知器点検記録・消火器交換記録など
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	施設内の劇物・危険物の管理は、それらを保管している研究室が適切に管理している。特別な管理システムは無い。
年度目標	全学の毒物・危険物管理システムが稼働したら、それを利用する。
年度報告	現状では、各研究室内において化学物質の管理を行っている。
達成度	B
改善課題	現状では管理システムを整備していないので、全学の方針に則って管理システムを導入したい。
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	現状では管理システムを整備していないので、全学の方針に則って管理システムを導入したい。
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	センター独自の取り組みは無く、全学や学部学科の安全管理教育、災害時避難マニュアルに準拠している。全学の防災訓練に参加した。
年度目標	今のところ現状を維持する計画である。

年度報告	現状を維持した。
達成度	B
改善課題	センター独自の安全管理教育や災害時避難マニュアルが必要かどうか検討したい。
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	センター独自の教育、マニュアル、訓練等はなく、生命工学部などに準拠している。

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題 と改善の方策	
------------------	--

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

基準3. 教育課程

領域：卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
d	⑥ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

基準4. 教員・職員

領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	<p>グリーンサイエンス研究センターは専任教職員を持たないので、研究支援について記載する。</p> <p>・福山大学グリーンサイエンス研究センター規程第2条(目的)に則り、本学における先端的な学術研究基盤を強化し、研究推進委員会の目的に沿って、生命工学部、薬学部を中心とするライフサイエンス分野の教育研究を推進し、地域の研究機関、産業界、自治体及び関係諸団体等広く社会と連携して活力ある地域づくりに貢献すること、技術振興に資すること、を中長期計画とする。</p> <p>・具体的には大学のブランディング研究や特別研究を推進する。</p>
-------	--

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	センター規程によりセンター長は学長が選考し、評議会の議を経て学長が任命する。副センター長は評議会の議を経て学長が任命する。また全学研究推進委員会の目的に沿ってセンター長がリーダーシップを取る。
年度目標	現状を維持する
年度報告	現状を維持し、大学の意思決定に沿って運営した。
達成度	A
改善課題	大学・学長の意思決定のもと次年度はセンターのレジデントが増えるので、引き続き適切な運営を続けたい。
根拠資料	①福山大学規定
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。

現状説明	現状ではセンター長と副センター長が協議して、権限・役割を分担している。事務系統は工学部・生命工学部事務室が担当している。
年度目標	現状を維持するとともに、必要があればマネジメントを見直す。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	次年度はセンターレジデントが増えるので、必要があれば教員間での役割分散を検討する。
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	現状では職員は配置されていない。
年度目標	現状を維持する事になると思われる。
年度報告	主にセンター長と工学部・生命工学部事務室が協働して適切にマネジメントしている。
達成度	A
改善課題	現状で特に問題はなく、機能的にマネジメントされている。
根拠資料	①福山大学グリーンサイエンス研究センター規定
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	

達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取組みを実施していますか。
現状説明	教員の資質・能力向上を目指して、定期的にグリーンサイエンスセミナーなどをSD研修として実施している。本センターの業務を担当する職員は、大学のSD研修を受けている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	グリーンサイエンスセミナー等をFD研修として実施した。職員がSD研修を受けた。
達成度	A
改善課題	引き続き、センターでは教員の資質・能力向上のためセミナーなどを企画・開催する。
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センターHP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	情報共有にOffice365などを活用している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	Office365、キャビネットKarinなど、大学のICT資源を利用して、大学運営の効率改善に努めた。
達成度	A
改善課題	引き続き大学運営の効率化のため、職員のICT活用に対して協力する。
根拠資料	①キャビネットKarinの該当フォルダー

次年度の課題と改善の方策	
2018年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	研究に専念する十分な時間の確保は残念ながら出来ていない。センターの施設設備の整備等の研究環境の管理は頑張っている。
年度目標	限りある時間の中、出来るだけ効率的に研究環境の整備に取り組む。
年度報告	研究に専念する時間の確保は困難であるが、センターの研究施設・設備等の研究環境は大幅に改善した。
達成度	S
改善課題	研究に専念する時間の確保が最大の課題である。
根拠資料	①環境DNA解析室の整備、次世代シーケンサー解析実験室の整備ほか
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	センター独自のものは無いが、「研究ガイドブック」等を通じて全学的な研究倫理の確立と運用に努めている。
年度目標	引き続き研究倫理の確立と厳正な運用に努める。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	全学の方針に則り、研究倫理の確立と適正な運用に努める。
根拠資料	①各種研究倫理委員会資料等
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	今年度は文科省の私立大学研究ブランディング事業に採択されたので、財政的な資源配分は改善した。研究人員、研究時間などの資源については厳しい状況であるが、適正運用を目指した。
年度目標	いずれも困難な状況ではあるが、そのなかでベストを尽くせるよう効率的な運用を図る。
年度報告	大学の支援により、研究活動への資源の配分や運用は適切に行われた。
達成度	S
改善課題	文部科学省私立大学研究ブランディング事業の突然の廃止が、次年度以降の大きな課題である。
根拠資料	①大学ブランディング研究に関する各種資料等
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	㊦ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	全学的に「研究ガイドブック」等が整備されており、全学方針に従って整備、周知に努めている。
年度目標	引き続き全学的な方針に基づいて、公的研究費の運営・管理の周知と整備に努める。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	①研究ガイドブックほか
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

基準6. 内部質保証

領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンサイエンス研究センターには自己点検研評価委員会が設置されており(運営委員会が兼ねる)、センターの組織体制や運営について自己点検を行う。 ・中長期計画としては、センター組織を見直し、兼任教員の配置などによりさらに研究推進を図る。 ・文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択されたテーマについて適宜外部評価を受け、研究内容や進展具合に関する外部からの意見を聞いてPDCAサイクルを回す。 ・そのほか、上部の研究推進委員会などでも研究の検証を行い、改革改善に努める。
-------	---

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	グリーンサイエンス研究センター自己点検評価委員会を設置し(運営委員会と兼任)、委員長、副委員長を置いて責任体制を確立している。
年度目標	内部評価の他、文科省プロジェクトについては本年度に1年目の外部評価を受けなければならないので、上部の研究推進委員会等と連携して外部評価の組織を整備し、責任体制を確立する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	文部科学省私立大学研究ブランディング事業の中間(最終評価)にむけて鋭意努力する。
根拠資料	①文部科学省私立大学研究ブランディング事業評価委員会資料等
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	センター自己点検評価委員会が取り纏めた自己点検評価書を、大学が取り纏めて大学HPに掲載しており、これを通じて該当部署の教職員が共有している。
年度目標	現状を維持。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	引き続き、中間評価や研究成果報告会を通じて自己点検・評価を行い、その結果を教職員で共有したい。
根拠資料	① 文部科学省私立大学研究ブランディング事業評価委員会資料等 ※研究の進捗状況(概略・詳細報告)を大学のHPに掲載 http://www.fukuyama-u.ac.jp/research/project/branding.html
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	IRについてはまだ始まったばかりであり、どの様な調査・データの集積が必要か、またそれを改善に活かすのかについて検討していきたい。
年度目標	IRを活用するために必要な調査・データ収集について検討していきたい。
年度報告	IRを通じたデータの収集と分析、活用はあまり積極的に行わなかった。
達成度	B
改善課題	手始めに、運営委員会などの議事録をキャビネット・カリンに入れていきたい。
根拠資料	① 特になし
次年度の課題と改善の方策	センター運営委員会議事録などを、キャビネットKarinに収載する。

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	研究推進・支援では、研究成果報告会や外部評価を受けて研究内容と研究の進行具合について検証し、その結果を改善に繋げるとともに、研究成果調査を通じてその機能性について検証している。
年度目標	研究成果報告会、研究会議、研究成果の調査などによりPDCAサイクルの仕組みの確立と検証を行う。
年度報告	上に記載した通り、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	引き続き、研究成果報告や外部評価によりPDCAサイクルを活用した質保証に努めたい。
根拠資料	① グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	研究倫理や公的研究費の適切な使用については、「研究ガイドブック」等を活用して全学的な取り組みに準拠してコンプライアンスの確立に務めている。センター独自の確立体制は無い。
年度目標	現状を維持し、教職員のコンプライアンスの確立に努める。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	引き続きコンプライアンスの確立に務めたい。
根拠資料	①研究ガイドブックほか
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本研究センターでは、大学のブランディング研究「瀬戸内の里山・里海学」に則り、大学の方針に基づき優先課題研究と特別研究を推進する。 ・文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択された「瀬戸内島嶼部における生態系の解明と産業利用・教育（略称）」について、リーダーシップを取って強力に推進する。 ・同研究プロジェクトは5年間の継続であるが、3年次終了後に外部評価を受け、終了時に再度評価を受ける。ここで良い評価が得られるよう努力するとともに、次期またはそれ以外の外部予算獲得を目指してブランディング研究に取り組む。
-------	---

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	㊦ 福山大学ブランディング戦略（ver. 2018）の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	現在の福山大学ブランディング研究は本センターを中心として始まったものであり、これを通じて大学のブランディング戦略に貢献する。当然関連する部局のメンバーには周知されている。
年度目標	当該部局への周知は当然であるので、他部局の周知に貢献するよう研究の推進と情報発信に努める。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	文部科学省私立大学研究ブランディング事業の廃止に当たり、教職員への周知に関して適切に対応したい。
根拠資料	①各種講演会、グリーンサイエンスセミナー、大学が行ったFD/SD研修などをセンターHPに掲載している。 http://web.fukuyama-u.ac.jp/green/

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	現在世界的な関心事は持続可能性であり、本センターは国連が定めた持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献を通じて本学のブランディング確立に貢献すべく努力している。
年度目標	国連のSDGsは世界的な開発ルール、指標であり、本センターは日本の大学としてはまだ珍しいSDGsへの取り組みを前面にアピールして他との差別化を図りたい。
年度報告	文部科学省私立大学研究ブランディング事業のブランディング研究「里山里海学」を推進した。
達成度	S
改善課題	文部科学省私立大学研究ブランディング事業の廃止に当たり、研究の継続に対し適切に対応したい。
根拠資料	① 文部科学省私立大学研究ブランディング事業の進捗状況を大学HPに掲載 http://www.fukuyama-u.ac.jp/research/project/branding.html
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊧ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	持続可能性や生物多様性、生態系サービスや環境保全など、世界的に取り組むべき課題を身近な瀬戸内を舞台に展開する研究プロジェクトを推進しており、これを通じて地域から国際社会に繋がる人材の育成に努める。
年度目標	現在の研究プロジェクトを強力に推進し、その研究成果を地域に発信することにより、地域から国際社会に繋がる人材育成を図る。社会と繋がった研究を通じた人材の育成に努める。
年度報告	文部科学省私立大学研究ブランディング事業のブランディング研究「里山里海学」を推進した。
達成度	S
改善課題	文部科学省私立大学研究ブランディング事業は廃止されるが、大学ブランディング研究は継続発展させたい。
根拠資料	① 文部科学省私立大学研究ブランディング事業の進捗状況を大学HPに掲載 http://www.fukuyama-u.ac.jp/research/project/branding.html
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊨ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	上の㊧の現状説明で記載したような取り組みを行っている。その成果は、研究成果発表会、研究成果報告書、外部評価などで検証している。
年度目標	現状を維持する

年度報告	文部科学省私立大学研究ブランディング事業のブランディング研究「里山里海学」を推進した。
達成度	A
改善課題	研究の推進に加え、その成果の検証について外部評価委員会を開いて外部評価を受ける予定である。
根拠資料	①文部科学省私立大学研究ブランディング事業の進捗状況を大学HPに掲載 http://www.fukuyama-u.ac.jp/research/project/branding.html
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	上の③の現状説明で記載したような取り組みを行っている。社会と繋がる研究(卒業研究など)を通じて地域の中核となる人材を育成し、地域に輩出していけるよう努力している
年度目標	現状を維持する。
年度報告	文部科学省私立大学研究ブランディング事業のブランディング研究「里山里海学」を推進した。
達成度	A
改善課題	研究の推進と人材育成には少し距離があるので、研究の成果として人材育成でも成果を挙げるよう務める。
根拠資料	①各種講演会 ②グリーンサイエンスセミナー ③大学が行ったFD/SD研修など
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	「瀬戸内の生態系解明と資源利用・教育」研究プロジェクトでは、地域の行政(福山市や笠岡市、尾道市など)や地域企業(日本総合科学他)と連携した取り組みを進めており、外部評価などで検証を行う。
年度目標	現状を維持する
年度報告	大学のブランディング研究「里山里海学」では、備後地域と密接に連携した研究も行っている。
達成度	S
改善課題	引き続き備後地域と密に連携した研究を推進し、備後モデルを世界に発信すべく務める。
根拠資料	①学術論文などの研究成果ほか
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	本センターは研究センターであるので、社会に繋がる卒業研究などを通じて全人格的な教育に取り組んでいる。その成果は卒業研究発表会や卒業論文などで検証する。
年度目標	現状を維持する
年度報告	センターは研究の推進に主眼を置いているが、全人教育にも繋がっているとの認識で取り組んでいる。
達成度	A
改善課題	研究を通じた全人教育に関して、卒業論文などを通じて検証していきたい。
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	⑧ 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	全学のプロジェクト研究に則り、「瀬戸内の生態系解明と産業利用・教育(略称)」や薬学部の特別研究をリードしている。
年度目標	現在の研究プロジェクトを推進することにより、福山大学のブランディング推進に貢献すべく努力する。
年度報告	主に文科省私立大学研究ブランディング・プロジェクトを通じて「里山里海学」に取り組んでいる。
達成度	S
改善課題	平成31年度をもって文科省事業は廃止となるが、引き続き「里山里海学」研究に取り組んでいく。
根拠資料	①研究成果発表会 ②学術論文 ③グリーンサイエンスセミナー ④研究成果報告書など
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑨ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	内部資金については毎年適切にセンター予算の申請を行っている。外部資金については個人が申請する外部研究費に加え、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に採択された。
年度目標	文科省プロジェクトについては本年度に評価と審査が行われるので、研究の推進と研究成果の広報等を行い、外部資金の獲得を目指す。
年度報告	2018年度は文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択され、主としてその資金を研究に充てた。
達成度	S

改善課題	平成31年度をもって文部科学省事業は廃止となるため、新たな外部資金の獲得を目指す。
根拠資料	①文部科学省私立大学研究ブランディング事業採択書ほか
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	毎年公開の研究成果報告会を開催しており、ホームページ上に研究成果報告書を公表している。また研究関連情報についてはホームページやプレスリリースなどを通じて社会に発表している。
年度目標	文科省プロジェクトでは研究成果の広報が求められているので、より効果的・効率的な広報手段を確立する(研究ブログの開始など)。
年度報告	学術論文、学会発表に加え、講演会、セミナー、地域の催しなどで社会に発信した。
達成度	S
改善課題	社会に向けての情報発信は重要であるが、研究時間やエフォートの確保とのバランスが課題である。
根拠資料	①学術論文 ②学会発表要旨集 ③セミナーポスターなど
次年度の課題と改善の方策	